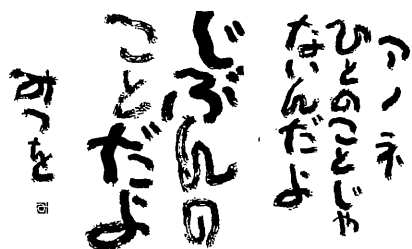


さくら第520号

令和 5年4月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7:TEL51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



『よく見て、よく聞いて、よく話そう』

世界遺産に1999年に登録されている「日光東照宮」に足を運んだ人は多いことでしょう。彫刻の数は5173体あり、有名な陽明門には508体と全体の約10%もあり、別名を日暮らしの門と呼び、日が暮れるまで見ても飽きないというほどその極彩色の彫刻の数々に見とれます。

「眠り猫」と並んで誰もが知っているのが「三猿・さんえん・さんざる」であり、「神厩舎・しんきゅうしゃ」という神様に仕える神馬(しんめ)をつなぐ厩(うまや)の長押(なげし)の上に彫られているのが3匹の猿の彫刻です。

周囲4面に各2枚ずつの計8枚が掲げてあり、子猿が成長し、親ばなれし、ひとり立ちのなかでいろんな挫折をへてやがて親猿になり子どもを産みそこからまた1枚目の彫刻にもどり、くり返すというストーリーになっています。

このなかの2枚目が「見ざる、聞かざる、言わざる」という彫刻です。目をふさぎ、耳をふさぎ、口をふさいでいます。

世の中の汚れたものや醜いものは見ないようにしよう、悪いことは聞かないようにしよう、人の悪口やかげ口は言わないようにしようといういわゆるいましめが込められています。

中国で「論語」という2500年前に書かれた書物の中に、「不見・不聞・不言」という教えがあります。礼に外れたことは見ないように、礼に外れたことは聞かないように、礼に外れたことは言わないようにするという教えです。

ところで、検定試験や競技大会、春休み、夏休み、冬休みなどの日程やその時々連絡じ

こうなどは毎月発行の塾報さくらでお知らせしていますし、その都度、書いた紙を渡します。

検定試験を受ける時は、受験料を入れる袋に受験級・段位、試験日と受験料と納入月日を書いてあります。受験票には、試験月日と試験開始時間、試験会場が書いてあります。

教室の白板に書き、お知らせとして書いた紙を玄関や室内に貼つてもいます。しかし、はっきりと見ていない人がいます。

試験日の1週間前ごろに、試験に行く時は家族の誰に送ってもらうのかと聞けば、「エッ試験、何それ？」と驚いた顔で言う人がいます。そこで、今度の日曜日が試験日ですよと言えば、「知らなかった、本当に？」と、真顔で言うから、何を今ごろ言っているの？受験票もらっているでしょう。出して確かめなさいよ!!

通塾カバンの中をゴソゴソ探がしやっとなってきた折れ曲がってしわだらけの受験票を見ながら、「アッ本当や」と言いながら、はっきり見ないでまたカバンにもどします。

説明をしても、受験票をわたしてもしっかり見ない人が多くいます。見ない、聞かない、言わない(質問しない)のでは困ります。

日光東照宮の三猿とは真逆の三猿が、埼玉県の秩父神社にまつられているといえます。すなわち、①物事を注意深くよく見ましよう。②自分の気づきや考えを積極的に発言している色々な人に聞いてもらいましよう。③先生や友だちの話、家族の人たちの話によく耳をかたむけましようという意味での三猿です。このことから「お元気三猿」と呼ばれています。

徳川家康の指図でこの神社が造営され、日光東照宮は家康の孫である三代目将軍によって造営されており、歴史は秩父神社が古いです。

同じ場所で、同じ話を聞いていても、同じ物を見ても受け取り方、気持ちの持ち方でその後の行動が違います。必要性を強く持っているかどうか、その事に意欲をもってやろうという気持ちが強いかが大事です。「お元気三猿」のように積極的に行動していきましょう。